



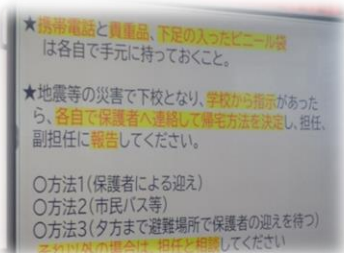
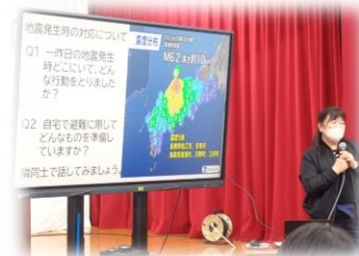
かけこう通信

令和7年度 第10号
令和8年2月16日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

地震発生！そのとき、あなたは… ～3学期始業～

1月8日(木) 3学期始業式を行いました。

6日(火) 午前10時18分頃、県東部を震源とするマグニチュード6.2の地震が発生し、島根県で最大震度5強、ここ掛合で震度4を観測しました。当日は冬休み中であつたため、生徒の登校はありませんでした。これまでめったに地震は起きない地域であつたため、あまりにも大きな揺れに勤務していた職員たちはたいへん驚きましたが、幸い、校舎は大きなダメージを受けることなく、無事に始業式を迎えることができました。これを受けて、始業式前の日程を急遽変更して、2時間の全校集会を行いました。この前日に、余震に備えて、また非常時の避難



を想定して、防寒着、防寒具を着用し、貴重品、スマホ、袋に入れた下足を持参して集合することを予め周知しました。まず、地震発生時の対応について、学校安全教育担当から講話がありました。地震発生当日に自分が取った行動と、避難に際して予め準備しておく物について、隣同士で確認したうえで、今回の地震の特徴である「長周期地震動」の意味や3日分の備蓄品例、隣接する小学校への避難経路、避難後の帰宅方法などについて、具体的な説明をしました。避難訓練は定期的には実施してはいますが、生徒たちは自分事としてより真剣なまなざしで聴いていました。

次に、各自のスマートフォンを用いて緊急連絡を送受信する設定について、ICT 担当から講義・実習がありました。普段の授業から一人1台端末(Chromebook)を利用していますが、身近によく使うスマートフォンはそれとは異なる設定や環境下にあります。地震直後の安否確認も含めた学校と生徒の双方向の連絡のやり取りが十分に徹底できなかった反省を受け、また今後に備えて、一斉に個人端末の設定をしました。実習も兼ねて各自で設定し操作しましたが、それぞれの携帯キャリアによるところがあるところとわかり、その連絡やり取りをする以前の困難さに気づきました。



その後、臨時の生徒総会を行い、生徒会会則の改定について審議しました。特に、提案された「校則改定の提案に関する条文の追加」は、学校内外で校則を守って生活する生徒を代表して、会長から「自分たちで校則の改定に積極的に関与し、守るべきルールを自分たちで決めることで、私たちの自律心が育つのではないかと」と問いかけがありました。現行の内容は、2023年度の新制服導入に伴う服装に関するルールが変更されたこと以外は大きな変更が見られません。激変する日本社会において、2022年に成人年齢が18歳に引き下げられるなど、高校生に対する社会の認識も大きく変わりました。「そのような社会の変化に対応した、新しい校則のあり方を考えていく時期になって

いると私は思います。」と足立さんが強く語ってくれたのが印象的でした。

最後に始業式、校長先生からまず「あつという間に終わる3学期にマネジメント(生徒各自の取組に対して)をしっかり」と言葉掛けがありました。そして「友達・仲間」づくりについて、「学校って何?」「社会に出るとどうなる…?」と問いかけがありました。「学校におけるさまざまな教育活動の過程で生まれる『友達づくり』は生涯の友へとつながり、自分の支えとなるものである。いまのうちに友達づくりに励んでほしい。」と結ばれました。校長先生が50年ぶりの同窓会で感じられた重みのある言葉でした。

※校長先生の訓話内容はこちらから→



年末年始に降り積もった雪に、本日一段と雪が降り重くなりました。大地震の恐怖も感じた、19日間の短い冬休みが終わりました。「毎日の『当たり前』を『ありがとう』に変える」日常の幸せ・感謝に気づく3学期が始まりました。



地域課題の解決へ向けて ～1年生地域学習報告会～

1月30日（金）5限に1年生地域学習報告会を行いました。

1年生は4月25日（金）に、2年生から昨年度1年間かけて掛合町内5地区に分かれて取り組んだ地域学習の成果と課題について報告を受け、その先輩たちの取り組みと引き継ぎ探究活動を始めました。毎週の総合的な探究の時間や週末、夏・冬休みに行われた各地区でのイベント等に参加し、地域の方々と直接かわりながら地域が抱える課題等に向き合い、その解決策を考えてきました。11月7日（金）文化祭1日目にはその中間発表を行い、聴衆からいただいたアドバイスをもとにその後も試行錯誤を繰り返しました。

本日は、1年生の5地区に関わる学習の成果を報告し、各地区の担当の方から直接講評をいただきました。昨年度と同様、今年度も校内にて2年生にも聴講してもらい、地区担当の方々には他地区の様子も見ていただきました。報告のなかには、高校生目線の斬新なアイデアや工夫、先輩たちのアイデアをさらにブラッシュアップしたものなど、感心させられる取り組みが多くありました。

報告資料は次にリンクを挿入していますので、それぞれ詳細をご覧ください。

人間班

松笠班

多根班

波多班

掛合班



探究学習に関わっていただいた皆様にはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

交流・発表の掛高 ～3年生個人課題研究(卒業研究)校内成果発表会～

2月2日（月）3年生個人課題研究（卒業研究）校内成果発表会を行いました。例年、12月に開催していますが、今年度は先週初めに卒業試験を終え、卒業準備期間に入ったところです。

この研究は、普段の学習では得難い自主的な研究活動を通して、自分の考えや意見をまとめることを目的に、昭和44年から現在まで代々続いています。また、発表会は

- 発表を通じて、他者に分かりやすく伝えようとする態度や表現する力を養う。
- 自己の考えを大衆の前で表現することにより、自己肯定感を養う。
- 相互評価を通じて、他者の発表に傾聴し、理解しようとする態度を養う。
- 1・2年生は、次年度以降に行う自己の研究の参考とする。

を目的としています。

3年生は「総合的な探究の時間」の地域創造学習の一環として、自分の興味・関

心のあること、自身の進路希望・将来にかかわることの中からテーマを決め、これまで個人研究に取り組んできました。書籍やインターネット等を使い調べてわかったことや気づいたことから課題を考え、研究の目的を設定し、さらに実験・観察やアンケート、取材などを行いその成果をまとめました。当初はなかなかテーマ設定ができなかったり、研究活動や実験に行き詰ったり、調査が難航したりとそれぞれに苦労がありましたが、発表自体は1・2年生、教職員、地域の方々の前で全員が堂々と立派にできました。これまで培ってきた経験が活かされたものと思います。



3年間の探究活動の集大成として、「交流・発表の掛高」の実践を見ることができました。課題研究に取り組む中で様々な立場の人々との交流があり、今回の発表でそれらを発信し、次の交流へと繋がっていくものもたくさんあると感じました。ただし、3年生個々には失敗やトラブルが生じても次に生かそうと取り組めたか、また合言葉『『向き合う。その先に…』 Face it. Beyond that…』』に対して自分自身に向き合えたか、またその先を見据えることができたかなどぜひ振り返ってもらいたいものです。1・2年生には、3年生たちが研究に真摯に向き合ったこの姿を、ぜひ受け継いでほしいと思います。

ご来場いただきました外部の皆様、研究にご協力いただいた関係機関、関係各所の皆さま、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

